広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	若い日本人はどういうふうに高齢者をみるか
Author(s)	レイチェル バターフィールド,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 1995 : 53 - 65
Issue Date	1996-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039368
Right	
Relation	

若い日本人はどういうふうに高齢者をみるか

レイチェル・バターフィールド

1．初めに

「頑固な、優しい、人生経験や知識が豊富である、温かい、ひがみっぽい、ほがらかな、口うるさい、愛情深い、自己中心的、行動遅い、順応性がない、寛容な、無口、偏見ある、聞く耳を持たない、孫に甘い、わがまま、話しを繰り返す、今と昔をよく比べる、落ち着いている、笑顔をもっている、。。。」

上に示したことは、ある若者たちがアンケートに答えた彼らの高齢者に対するイメージの例である。

ある面では、どこの国でも、高齢者は一緒に見えてもいいであろう。長い生存による経験の重なり、体の自然の退化など、高齢者にはいろいろな特徴がある。ある諺はこう述べる。

「亀の甲より年の功」

高齢者は自然にもっとゆっくり生活をしたり、考えたりするが、愛も知恵もあるとほとんどの人々は同意している。

しかし、いつの時代にも弱いものが強いものに軽視されている傾向があるではないか。西欧でも家族の尊重がだんだん失われるにつれて、体が弱い高齢者も弱い地位を与えられていることは避けられない。

では、日本の高齢者は、どのぐらい尊敬されたり、軽視されたりしているかを調べた。さらに、特に若者がどういう態度を高齢者に対し持っているかを調べた。

2．日本の高齢者の状態の背景

（『国民の福祉の動向・厚生の指標』、（1994年）に述べられている統計から、私の関心のあることを次のようにまとめた）

まず、高齢者に関して、日本の独特の状態をすこし述べたい。

初めに、日本人は他の国の人より長く生きる。1993年の女性の平均寿命は82歳であり、男性は76歳であった（p21）。日本の高齢者はかなり健康的だと思われる。

次は、この「寿命の延び」をはじめ、「戦後のベビーブームの出生率の低下」、「最近の出生率の低下」（p24、25）により、日本は「高齢化者会」と呼ばれてきた。というのは、65歳以上の人は1990年には、人口の12.1%であることは他の国々とあまり違わない。しかし、2025年には、それは25.8%まであがると推定されている（p24）。このように、日本人の4人に一人が65歳以上なので、割合的に増えた痴呆やねたきりに悩んでいるかたに対する介護が増えたり、労働者人口の割合は減ったりして、国に経済的な負担が大きくなる心配ある。最近、経済や介護の問題から見た高齢化社会のについての本などが少なくない。

それから、日本は、せめて私のニュージーランドに比べれば、三世代の世帯が多い国である。1993年の推計による、三世代の世帯割合は人口の16.9%であり、1993年まではそれは12.8%に下がった（p25）。65歳以上の人の暮らしかたをみると、1975年には、54.5%の高齢者は三世代の世帯にいるが、1993年までは、それは35.9%に減少した（p26）。単独と夫婦のみの世帯数がこの間二倍ぐらい増えてきた。高齢者は更に独立的な生活をする傾向である。一つの理由は、子供の新婚のころから一緒に両親とずっと暮らそうとする人は、特に戦後、だんだん少なくなってきた。主に子供の意志によることか両親の意志によるかははっきりしない。

歴史的な面からみると、日本の高齢者が家族の中で高い身分を与えられていたことは多かった。それは単純に年齢だけではなく、農業や家業などの生活に大事な知識、伝統をも持っていた。そして、高齢者が孫の面倒をみているあいだ、家族力仕事ができた。戦後、教育や技術・産業などの発展も出産率の低下のため高齢者の知識が求められることも少なくなり、家族、社会に、高齢者の役割も変わった。

戦前、65歳以上の人はそんなに多くなかった。例えば、1921-1925年には、男性の平均寿命は42.06歳で、女性のは43.20歳だった。1993年には76.25歳（男）、82.51歳（女）となり、平均寿命はたいへんあがった（p19）。というのは、現在、もっと多くの人は健康的に長く生きるが、かれらの役割は過去と比べれば不明だ。

時間がおおく、ある人は趣味を深め、ある人は、アルバイトをする。私達がよく見る日本の高齢者の仕事は草かりやごみを集めるような仕事が多く、社会的に身分が低い仕事であるが、高齢者が収入のある仕事ができることはよいことではないか。私の国には、そのものがない。

3．アンケート

高齢者といっても、いろんな人々がいるとはいうまでもないことであり、一般に「高齢者はこうだ」とは言いにくい。ある人は自分のおばあさんやおじいさんや隣のおばさんを知っているが一般的にイメージがなかったと言った。みんな一緒ではないだろうか。回りの個人を見て、その人が所属する団体はこうだという印象を得る。そして、いろいろな人にアンケートに答えてもらうと、個人的な印象を集めることができ、一般的に「A」はこうだともっと断定的に言えるだろう。

それで、私は88人（女性は50名、男性は38名）にアンケートに答えてもらった。年齢は15歳から30歳までであり、約90%は20歳ぐらいの大学生であった。（注：この調査のサンプル数は少なく、その大部分は大学性であるので、日本の若者全体の傾向とは言えないかもしれない）。

アンケートの質問の書き方と答え（＊）の例を下に示した。

（4）高齢者は次のことをそれぞれどれくらい大切なことだと思っているでしょうか。

大変大切　　全然大切ではない

a．現在のこと ＊_____._____._____._____.

b．過去のこと ._____._____._____＊_____.

c．将来のこと ._____._____._____＊_____.

すべての回答をまとめると、私はそれぞれの点（.)を５位、４位、３位、２位、１位（それぞれを順位と呼ぶ）とし、何名が（ａ）の質問にそれぞれの順位の選択としたかを数えた。（ｂ）も（ｃ）も同じように扱われた。

そして、（ａ，ｂ，ｃ）のある人の回答全体を見ると、回答者が差をつける場合がある。例えば上に書いた例をみると、この回答者は「現在のこと」が他の答えより大切だと思っていた。同様に答えた（ａはｂとｃよりもっと高い順位をつけた）人数を加えた。

3.1. アンケートの結果

１（ａ）あなたは高齢者の気持ちがよく理解できると思いますか

（ｂ）高齢者はあなたの気持ちをよく理解できると思いますか

	順位	（ａ）	（ｂ）
あまり分からない	1、2	41.6%	42.7%
	3	34.8%	38.2%
よくわかる	4、5	23.6%	19.1%

大体、それぞれ相手を理解できる力は弱いと回答者は思った。

２（ａ）あなたは高齢者と触れ合う時間（直接話す、電話で話すなど）はどのくらいありますか

（ｂ）触れ合いの時間は今よりもっと多い方が望ましいですか、少ない方が望ましいですか

順位		（ａ）		（ｂ）
1、2	少ない方	56.2%	少なくする	2.3%
3		18.0%	今のままでいい	33.0%
4、5	多い方	25.8%	多くする	64.8%

これを見て、この若者たちは今高齢者とあまり触れ合わないが、なかなか高い数が高齢者ともっと会えばよいと思った。このあまり高齢者と会わないと答えた50人の中には、少ないの７人は「そのままでいい」、２人は「少なくする」と答えた。

３（ａ）高齢者は好きですか

（ｂ）高齢者を尊敬しますか

(4)

	順位	(a)		(b)
嫌い	1、2	1.1%	尊敬しない	1.1%
どちらでもない	3	48.9%	どちらでもない	20.5%
好き	4	50.0%	尊敬する	78.4%
(大変好き	5	5.7%	大変尊敬する	19.3%)

嫌い、尊敬しない答えは非常に少ないと期待していた。大体、この若者は「高齢者を好く」(50%)に比べると、「尊敬する」約(80%)ぐらいは多い。全体から見て、次のように、女性が「(大変)好きだ」、「(大変)尊敬する」と答えた割合は男性の方より多かった。

	順位	(a)	(b)
女性	4、5	50.0%	90.0%
男性	4、5	50.0%	63.2%

全員の半分ぐらいは両方の質問に同じように答えた。

4. 高齢者は次のことをそれぞれどれくらい大切なことだと思いますか

(a)現在のこと

(b)過去のこと

(c)将来のこと

	順位	(a)	(b)	(c)
大切ではない	1、2	3.4%	11.8%	17.0%
まあまあ大切	3	23.9%	14.5%	29.5%
大切	4、5	72.7%	74.7%	53.4%

高齢者は将来のことを一番大切ではないことだと多くの若者は思った。現在のことも過去のことも大事だとされていた。現在のことは大切ではないと感じた回答者は一番少ない。

(a, b, c)のすべてに同じ順位をつけた人は25%いた。その他の回答者は(a, b, c)に差をつけた。そのうち(a、b、c)のどれかが最も大切だとに回答した人の%を(a、b、c)別に示す。また、最も大切ではないと回答した人の%も(a、b、c)別に示す。(注:2つ同じ順位につけたものは、ここで扱われていない)。

(3つの中)	(a)	(b)	(c)
一番大切	4.6%	25.0%	5.7%
一番大切ではない	11.4%	20.5%	33.0%

この統計を見ると、面白いのは、25%の人は特に過去が一番大切であり、またの20%は逆にそれを一番大切でわはないと強く思ったことである。そして、33%は将来が3つの答えの中に一番大切ではないと思った。

5．高齢者は次の点で遅れているでしょうか。

（a）外見

（b）意見

（c）趣味

	順位	（a）	（b）	（c）
遅れていない	1、2	33.0%	33.0%	43.2%
	3	42.0%	31.8%	33.0%
遅れている	4、5	25.0%	35.2%	23.9%
	(5	2.2%	6.8%	1.1%)

大変遅れていると答えた者は非常に少ない。大体、趣味は一番遅れていない、意見は一番遅れているであった。また、約30%の人は「外見、意見、趣味」に同じ順位をつけたが、次のように、特に「意見」は一番遅れていて、「趣味」は一番遅れていないという答えはかなり多かった。

（3つの中）	（a）	（b）	（c）
一番遅れている	14.8%	26.2%	8.0%
一番遅れていない	12.5%	12.5%	17.0%

6．高齢者は次の点で若者と同じようにすることがいいことだと思いますか。

（a）外見

（b）意見

（c）趣味

	順位	（a）	（b）	（c）
よくないと思う	1、2	56.3%	47.1%	41.4%
	3	30.0%	39.1%	35.6%
いいと思う	4、5	13.8%	13.8%	23.0%
	(5	4.7%	0%	2.3%)

約55%の人は「外見、意見、趣味」のすべてに同じ順位をつけ、約20%は「大変よくない（1位）」とすべてに答えた。このように、同じにする方がよくないとある人々は強く思った。次のように、（a、b、c）に差をつけた回答者にとっては、「趣味」は「同じにすることが（一番）いい」と、「外見」は「同じにすることが（一番）よくない」と総合的に答えた。趣味は遅れていない順位をつけたのに、これは一番変わるべき点だとされていた。

（3つの中）	（a）	（b）	（c）
一番いい	7.0%	9.2%	14.9%
一番よくない	12.8%	5.7%	1.1%

7．あなたは次の点で高齢者とどれくらい同じだと思いますか。

（a）外見

（b）意見

（c）趣味

	順位	（a）	（b）	（c）
少ない方	1、2	71.6%	48.1%	59.1%
	3	23.9%	34.6%	35.2%
多い方	4、5	4.5%	17.3%	5.7%

（3つの中）	（a）	（b）	（c）
一番似ている	6.8%	33.0%	5.7%
一番似ていない	29.5%	2.2%	4.5%

約70%の人は自分の外見は高齢者と似ていないと答えた（cf．高齢者の外見は遅れていない）。また30%の回答者はすべての質問におなじ順位をつけた。面白いことは（5）には高齢者の意見は一番遅れているとされたが、ここでは高齢者の意見は若者とずっと一番似ている。

8．高齢者の生活についての次のような意見があります。それぞれについてあなたの考えを書いてください。

（a）家族と同居する

（b）家族と近い場所に暮らすべきである

	順位	（a）	（b）
そう思わない方	1、2	19.8%	6.3%
	3	24.7%	10.0%
	4、5	55.6%	83.8%
強くそう思う	（5	16.0%	41.3%）

この質問の（a）と（b）に「そう思う」方の返事をすると期待していた。33%の人が（a）と（b）に同じ4、5位をつけたことがわかっても、「近い場所に暮らすべき」の回答は「同居するべき」よりはっきり多い。

おじいさん、おばあさんがうちにいる20人の若者にとって半分ぐらいは高齢者が家族と同居するより近く暮らす方ははっきり好きであり、2人は同居する方が好きであり、6人はどちらの方でもいいと思った。他の68人のうち3人は同居する方が近く暮らす方よりいいと思った。

9．高齢者の生活費の責任を負うべきだと思いますか。

（a）本人

（b）長男
（c）長男を含む子供全員
（d）国

	順位	（a）	（b）	（c）	（d）
負うべきではない方	1、2	9.1%	16.3%	3.4%	0%
	3	23.9%	35.0%	26.1%	10.3%
負うべき	4、5	67.0%	48.8%	69.3%	89.7%

（3つの中）	（a）	（b）	（c）
一番負うべき	33.0%	2.2%	17.0%
一番負うべきではない	14.8%	19.3%	2.2%

予想されたように、国が生活費を負うべきという答えはまさに人気がある答えであった。国のことを忘れ、「子供が払うべき」と「本人が払うべき」の答えは多かったが、本人が全く払わないという声はもっと大きかった。一番反応が大きかった提案は長男が特に責任を負うということである。その回答をしている者は男性より女性の方に多かった。この質問に対し、約40%の者はすべての質問（a、b、c）に同じ順位をつけた。

１０．高齢者についての印象を答えてください

順位		（a）		（b）		（c）
1、2	暗い	17.2%	不幸せ	13.9%	役に立たない	12.7%
3		55.2%		58.2%		36.7%
4、5	明るい	26.4%	幸せ	27.8%	役に立つ	50.6%

この質問には、約20%の者（また、おじいさん、おばあさんがうちにいる者の50%ぐらい）はすべての（a、b、c）に「どちらでもない」（3位）を答えた。（a、b、c）に「暗い」の２位をつけたそれぞれの15、14、10人のうち5人はすべてに同じ回答をした。高齢者が役に立つとはっきり思った者はかなり多い。

１１．あなたは高齢者にどのくらい関心がありますか

	順位	
ない方	1、2	16.1%
どちらでもない	3	29.9%
	4、5	54.0%
大変ある	(5	12.6%)

一般的に、50%以上は関心を持つ方、30%ぐらいは「どちらでもない」、15%は関心がない方であると答えた。25%の男性は高齢者に関心があまりない（1、2位）と答えたが、わずかの8%の女性はそのように答えた。そして、非常に関心（5位）を持つ者はほとんど女性(11人の中の9人)であった。

（8）

１２．高齢謝のどんな点が好きですか

次は記述回答の例である。

・「困った時、行き詰まった時に必ず適切な言葉で励ましてくれる。人生経験が豊富なだけに、その時のアドバイスは本当に内容が深く、参考になるものばかりだ」
・「愛情深いところ」、「思いやりがある」 、「人に対して寛容」
・「優しい」 、「お金をくれる。孫にやさしい」
・「笑顔」、「温かい」、「笑うと本当に幸せそうに見える」
・「人生についての見通しがいい」
・「モラルがある」、「見識を備えている」
・「人生経験が長いぶん、又現代の若者が知らない戦争体験などの知識を与えてくれる」
・「日本の伝統的な事に詳しい（着物の着方など）」
・「のんびりした雰囲気と、生活の知恵がたくさんあるところ」
・「何事にも落ちているところ」「せかせかしてないところ」

経験や知識が豊かだという答えは多かった。

１３．高齢謝のどんな点がきらいですか

・「一概に言えないけれど、頑固で人の意見をきかない傾向」
・「趣味・価値感が合わない」、「考え方があわない点」
・「意志伝達が難しい点」
・「うるさいところ」、「無口」
・「たまに、すごいおこりっぽい人がいる」
・「動きが遅い」
・「卑屈になっている人」
・「今にこもりがちになってしまう」
・「同じことを何度も繰り返しているところ（しかたがない）」
・「今と昔を比べること」、「過去の話ばかりする点」
・「昔の考えや常識に固執しているところ」、「新しいことを嫌う。順応性がない」
・「ひがみっぽい」、「若者に対する偏見」
・「現代の若者の考え方をなかなか受け入れてくれない」
・「若い人の意見をたまに異端視する点」
・「男尊女卑志向が高いこと」
・「わがままな点、身だしなみがだらしなくなること」
・「特にありません」、「嫌いな所はない」

頑固であるという答えは多かった。

１４．若者の雑多の意見は次のようにアンケートに書いてくれた。

a．高齢者を尊敬したり、優しく扱おうという気がした。

イ．高齢者が私達の先輩、恩人であるから。

・「 このごろ若い人が高齢者をさけているけど、とても失礼だと思う。平和だ平和だといっても、戦後、大変な中を乗り切って、今の日本をつくったのも、今の高齢者だし、今の高齢者がいないなら、ぼくらも存在しないからだ。だから、もっといたわってあげなければならないと思う」

・「体の機能の低下に伴い、それによって自分に自信がもてなくなる人もいる。それに対してイライラする若い人もいる。しかし年長者に対して尊敬を払うことは大切であり、高齢者もこれまでの経験を生かして若い人を助け、支えることもできるだろう。
当たり前のことだができればうまい関係がつくられるのではないだろうか」

・「これまで（祖母に）お世話になった分、少しでも恩返をしていきたいのだが・・・」

・「人生の先輩として大いに尊敬すべきだと思う」

ロ．私達若者も高齢者になるであろうから。

・「いつか自分もこんな風になるのかなと思う」

・「誰でも高齢者になる可能性があるのだから、もっと高齢者にやさしくできるのではないかと思う」

b．高齢者は高齢を楽しみ、無遠慮にし、他人に頼りすぎないように回答者が高齢者に求めた例があった。

・「家族に頼りすぎになってしまうように感じる」

・「高齢者というと、どうしても家族に面倒をみてもらうといった受け身的な存在になってしまうので、そうではなくて、やはり自分の人生なのだから、出来る範囲内では、高齢者も自立すべきであるし、まわりもそういう環境をもっと作るべきだと思う」

・「高齢者の方も自信をもって世に出てきてもらいたい」

・「どの年齢でも生きがいがないといきていてつまらない。若い頃のエネルギーがなくなって、ただ生きているだけの平凡な生活をおくっている老人が多いと思う。もっと『老人の楽しみ』があった方がよい」

c．高齢者を一人にしないように回答者が高齢者以外の人に求めた例があった。

・「高齢者が一人ぼっちでいるようなことがないようにしたいです」

・「高齢者は話し相手がいなくて寂しいひとが多いと思う」
・「最近、一人暮らしをしている祖母のことが大変気にかかる」
・「自宅のふとんで家族に囲まれて人生を終えるのは最も望まれることである」
・「 高齢者の一人暮らし（または夫婦の２人暮らし）は寂しいと思う。一人になったら子供か、できなければ他人に面倒をみてもらうべき」

d．若者と高齢者の間のずれを減らそうとしようという気がした。
・「世代間の断絶ということが問題になっているが、世代がちがうということを言いわけにせず、若者と、高齢者はお互いに理解し合える機会をもっと増やすべきだと思う」
・「高齢者に対しては、外見への見劣りがあるのは事実だと思う。というのは、高齢者になれていない子供が、高齢者に対して一種の偏見をもっているところからもうかがえると思う。しかし、それは身近に高齢者がいないせいであって、もっと家庭の中に、または近所での交流をふやせばこのような感情は無くなると思う」

e．高齢者に対して積極的な言葉があった。
・「高齢者であるからといっておくれているとは限らないとおもわれます。実際、私の祖父の考え方はとても現代的で、実家で祖父と話をするのはとても楽しいです。
・「私の祖父母は田舎に住んでいる、ふるい考え方をする人だが、私達と同じ考え方をする人もいる」
・「高齢者は役に立たないなどとは全くおもっていない。子供には子供の、おとなには大人の、高齢者には高齢者の役割が（社会においての）あると思います」
・「高齢者と若者の付き合いがもっと深くなることがお互いを知る上で望ましいと思う」
・「最近、我が国では新しいことを重視しすぎて、古き、良きことを見落としてしまっていると思う。高齢者に学ぶことはたくさんあるはずだ」
・「祖父母と一緒に話していると、同じようなことを話したりするところは、のんびりと、時間が経ている感じで、気持ちが落ち着く」
・「大低の高齢者は幸せにくらしていると思う。年金があるから金の心配はない。好きなことをして暮らしていける。病気さえしなければ、日本の社会保証制度なら、何の心配もなく、棺桶に入れる」

f．高齢の悲しさに対する異なった意見があった。
・「バイト先で高齢者のお客様がよくいらっしゃって接する時が多いが、身寄りの人がいないであろうおばあさんなどは私達にかまってもらいたくて、店の外から大声で店員を呼んだり、買った物を手押し車にのせるなど、様々な注文を忙しい時におしつけて下さる。その他さまざまな点において（例えばビニール袋に小銭を入れて買

い物するなど）高齢者となるのがいやだと思うような点が沢山見えてしまう。他人から見て、なんとも言い難い悲しみをさそうような姿をしてでも長生きしたくないと私は思ってしまいます」

- 「私の祖母は昨年自宅で死去しました。最後の３年間はねたきりでしたが、母の手厚い看病もあって幸せだったと思います。いずれは我が身、みんなでかんがえていくべき問題であると思うし、人生の先輩として大いに尊敬すべきだと思う」
- 「『老い』というのは確実に訪れるものであるが、若い私としてはそれが悲しいもののように感じることがある。たが、大人たちにとってはそんなにまで感じていないのかもしれない。年齢は重ねても、心は前向きに若々しくあってほしいし、私もそうなりたい」

ｇ．「一般的に」高齢者がこうだと答えることは難しいそうであり、次のような意見もあった。

- 「考えてみると、普段の生活の中で、祖父母以外の高齢者とはほとんどかかわりをもっていない」
- 「実家には祖父母がおり、そのためというか、あまり高齢者に対する異質感というものはかんじていないつもりである」

3.2「高齢者は遅れているか」

アンケートを書いた時、「遅れる」という言葉を選択することは誤解をまねいたかもしれない。この質問が差別的であると指摘した人がいた。その指摘があったことはそのものが面白く、おばあさん、おじいさんたちが絶対遅れていないとある若者たちが考えていることの反映である。異なっている人は優った人か劣った人であるという意見は現在一般的にあまり受け入れられていないことである。

（質問5に）理論的に高齢者が遅れていないと答えた者がいたのに、（質問7に）自分の外見と同じとする高齢者の数は非常に少ないようである。約70％の人は自分の外見は高齢者と似ていないということを前に述べた。若者自らは流行の服を着ない可能性があるが、むしろ、流行していない他の若者が軽視している傾向があるのに、もっと年をとった人は流行していなくてもいいことがあるであろう。高齢者らしさはいいことである。

（質問6に）高齢者は若者と同じにする方がよくないとある人々は強く思った。つまり、異なっても高齢者は高齢者であり、（私達）若者は彼らが変わることを望む権利を持たない。

高齢者の趣味はかなり遅れていない方に順位をつけたのに、これは一番変わるべき点だとされていた。理由は趣味を一緒に楽しめばいいと思う人がいたのであろう。高齢者の意見は一番遅れているとされたが、外見と趣味を比べれば意見は若者と最も似ている。

3.3. 結果のまとめ

回答者はあまり高齢者がわからなく、あまり高齢者と触れ合わないことは積極的にみえないが、回答者は世には知らないことは多いという理解あるので謙遜として答えるかもしれない。また、高齢者と触れ合わない理由は学生はよくうちから離れた所で生活するの要素がある。そういう時、知っているおじいさん、おばあさんたちからも離れてくる。

一般的に、回答者は高齢者に向ける積極的な態度がある。半分以上は高齢者に関心があり、もっと触れ合いがあればよいと感じたり、高齢者が好かれ、尊敬されていたりする。尊敬することは愛よりたやすく、「自分のおばあさん、おじいさんが好きなのか」と尋ねれば「はい、好きだ」と答えた率はもっと多かったかもしれない。ある人々からの「高齢者は遅れていると言えない」のような態度も高齢者の地位を高めている効果がある。注意すべきところは回答者の多くは（60%以上）大学で人文学を勉強しているので、人間関係への関心が強く、特殊な傾向を与えた可能性がある。（あいかわらず、一般的に述べることは落とし穴が多く、大変気を付けなければいけないことである）。

回答者は高齢者がもっと若い人と同じにする必要はないと思った。高齢者が家族と同居することより近い場所に暮らす方が好きであり、だれが高齢者の生活費を払うべきかという質問に対して国は一番人気があり、本人と子供のそれぞれが次であり、長男の答えは最後であった。長男は払うべきではないというのは現在の「平等が重要な社会」の特徴ではないか。（自分の税金を増やす時が来ると、国が払うべきという意見は変わるかもしれない）。

高齢者に与えた特徴は一般的に、次のようであった。将来のことより現在のことと過去のことを大事にする。あまり遅れていないが、どちらかといったら意見は一番遅れ、趣味は一番遅れていない。あまり若者と似ていないが、意見は一番似ているところであり、外見は一番似ていないところである。性格は特に暗くもなく、特に明るくもなく、特に不幸せでもなく、特に幸せでもないが、明るく、幸せの方に傾けている。役に立つ者である。

若者に好かれていた高齢者の特徴は主に「愛情深い、温かい、経験・知識の豊かさ、落ち着いている」ところであり、嫌いのは主に「頑固、卑屈的、ゆっくりした動き、昔のことや考え方をおしてくれる、若者をわかってくれない」というところだと述べられる。

4．結論

高齢者と若者はますます離れた世界に暮らしているようである。ものの変わりやすさや科学・工学技術の発展に伴って、これは仕方がないことである。ゆっくりしている高齢者は他の人より「遅れてくる」か「昔のやり方にしがみつく」ことは避けられない。アンケートに答えてくれた者は　高齢者は高齢者であり、変わる必要性はなく、高齢者がそのまま一番いい状態であるなどというのは、人間愛を示したものである。こういう態度は高齢者と若者の間のずれや摩擦を解決する方法である。

若者は高齢者との触れ合いを失うと、高齢者の知恵などを失う。まだ日本では高齢者は強く尊敬されていて、関心の的である。しかし、歴史的に日本は他の国々のまねをし、又、他の国の間違えを繰り返した傾向があった。今の日本は高齢者を尊重することを止めないように

気を付けなければならないと思う。

参考文献

アードモン・パルモア、前田大作、1988年、『お年寄り、比較文化からみた日本の老人』、片多順訳、九州大学出版会、福岡
今堀和友、1993年、『老化とは何か』、岩波書店、東京
こうの池雄夫、1987年、『老人讃歌』、燦葉出版社、東京
『国民の福祉の動向・厚生の指標』、1994年、第41巻第12号、財団法人厚生統計境会、東京